

2019年 1月号

一般社団法人
北海道歯科医師会
北海道歯科医師会HP <https://www.hokkaido-shikaishikai.com>

D.NEWS

Hokkaido Dental Association "Doushikai Tsushin"

北見 KITAMI

平成30年北見歯科医師会野球部総会・納会
日時：平成30年11月17日(土)
午後5時より
場所：サロマ湖悠林館



野球部総会・納会が今年もサロマ湖悠林館全館貸し切りで行われた。総会では、金山部長の「本年大会の結果は3チーム共に残念な結果に終わってしまいましたが、来年に向けて新たな気持ちで頑張りましょう！」という挨拶に始まり、会計報告・協議事項について話し合われた。

チーム編成については、来年も何とか3チームを維持することが確認された。また、Bチーム監督体調不良による監督交代が承認され守屋新監督が就任し、「ピッチャーください」と本年大会のBチームの弱点補強を訴え、寝耳に水の就任スピーチで笑いを誘った。総会後、納会が行われ、金山部長・米村副会長の挨拶後に米村先生へ還暦赤ジャンパーの贈呈があった。今年の納会は、静かな雰囲気であり嵐の前の静けさかのようで怖かったが、昨年ほど激しくもなく無事終了し、皆さん早めに就寝したとのことだった。(藤井 大記)

「歯科衛生士が知っておきたい障がい者の特性と歯科診療の実際」
日時：平成30年11月23日(金・祝)
場所：北歯会館

東京歯科大学 歯科麻酔学講座 松浦信幸 准教授をお迎えした北海道歯科衛生士会オホーツク支部主催の標記講演会が開催された。さてオホーツク管内には障がい者歯科センター機能をうたう施設ができて

いる。開設一年後のセンター機能実績の講演会では「障がい者治療に特別なことはせず小児診療方法に準じTSD法などを使い場合により全麻を使う。静脈内麻酔や鎮静は呼吸の問題や確実性に鑑み病院麻酔医の方針で行わない。全麻覚醒時に障がい児に対して特別な配慮はせず健常者と同じである」との内容を以前D.NEWSに報告した。

実際に障がい者診療を行なっている松浦先生の講演内容は多岐にわたり紙面には載せられないが、一言でいえば心に突き刺さる2時間半があったという間に過ぎた。一部抜粋するならば以下のとおりだが最後の言葉を障がい者の親が聞けば、慟哭の衝動に胸が締め付けられるに違いない。「静脈内鎮静は障がい者診療では必須だと思います。確実ですし、うちではメインに考えています。脳性麻痺で力が入った患者さんも、すごい楽だったと言ってくれます。質の高い治療も可能です。行動療法、レストレーナーできない治療もあります。静脈内鎮静、麻酔でほぼ対応しますが、多数歯処置などでは全身麻酔を適応します。

全麻覚醒時にはまず点滴に気をつけます。こういう子はかなり嫌がりますので。パニックにも気をつけ嘔傷など興奮に気をつけています。あと障がい者診療でアドバースできること一つあるとすれば、その子を好きにならなってしまうことです。好き好き光線を出すことです。相手は本音でぶつかってきます。好きにならないのに好かれませんか」管内の障がい者診療をなんとかしたいという思いだろう、祝日にも関わらず66名が会場を埋め尽くした。「治療が難しい場合は音更まで通院しているため、市内で治療が受けられるように希望する。道北口腔保健センターに11人通っています。北見にも通える道北医療センターみたいなところがあれば通いやすいです」

管内に障がい者歯科センターはあるのに、こんな声がいまだに消えない。(堀江 仁記)

十勝 TOKACHI

税務講習会
日時：平成30年11月8日(木)
午後7時30分より
場所：十勝会館 2F 講堂
題目：「働き方改革法の成立と実務対応策」
講師：田中 猛 先生(e-労務事務所 所長・特定社会保険労務士)



標記講習会が開催され、e-労務事務所 所長・特定社会保険労務士の田中 猛 先生を講師に迎えて「働き方改革法の成立と実務対応策」の演題のもとに会員19名参加で講演を行なった。

今年度成立した働き方改革法の国が目指す方針の説明およびその内容である長時間労働の是正、公正な待遇の実現について法律資料をもとにわかりやすく解説いただいた。また、その実務対応策として各種諸規定の整備の重要性を強くお話ししていたのが印象的であった。

講演後はフロアから活発な質問が飛び交い、参加者の関心の高さを感じた。最後に西本専務の閉会の挨拶で終了となった。(松澤直昭記)

「いい歯の日」市民健口講座
日時：平成30年11月18日(日) 午後1時30分から午後4時30分
場所：とかちプラザ 2階 視聴覚室

第1部
演題：タバコと禁煙について
講師：長田雅樹 先生(十勝いけだ地域医療センター 副センター長)

第2部
演題：喫煙が歯に及ぼす影響
講師：長澤敏行 先生(北海道医療大学歯学部 歯学科 総合教育学系 臨床教育管理運営分野 教授)

「第34回いい歯の日」を迎え、一般地域住民を対象とした「いい歯の日」市民健口講座が「とかちプラザ」で開催された。

今年のテーマは「歯周病と禁煙について」であり、講師として十勝いけだ地域医療センター副センター長の長田雅樹 先生と北海道医療大学の長澤敏行 教授をお招きして、タバコによる健康被害と禁煙の勧め、また、喫煙と歯周病に関する講演いただいた。

2020年の東京オリンピックに向けて受動喫煙防止法が制定されるなど最近のタイムリーな話題であり、聴講された皆様には医科と歯科の両面からタバコの

体への悪影響を理解いただけたかと思う。(南館直人記)

平成30年度 未就業歯科衛生士復職支援セミナー 「ブランク衛生士さん復職交流会」
日時：平成30年11月17日(土)
午後2時から午後4時

場所：帯広コア専門学校 講義室、実習室
十歯会主催の未就業歯科衛生士復職支援セミナー「ブランク衛生士さん復職交流会」が開催された。

今年は、10月、11月を復職支援強化月間としてセミナー当日、来られない人のためにマナー講習会やいい歯の日の講演会の参加を呼びかけたが、思うように参加者は現れなかった。セミナー当日は、2名の参加者に来ていただき、大滝会長の挨拶で始まり、十勝の歯科衛生士会の方々や林 理事に歯科医療の現状や復職に関する注意点、苦勞などについて講演いただいた。

その後、ドクターは退席し、歯科衛生士会が中心となって、恒例の歯科衛生士だけの女性だけの座談会が始まった。参加者は復職に対しての悩みや不安を本音で語り合い、何故かこの時間は毎年盛り上がっている。

その後、実習室に場所を変え、参加者にやる気や自信をもってもらおうという趣旨のもと帯広コア専門学校の講師に説明していただきながら和気あいあいと最新機器を見学・体験した。

最後に成田副会長から「今回参加してくれた人はきっと復職してくれることを期待しています」という言葉で閉会となり、楽しそうに満足した様子で帰っていった参加者達はこのセミナーを機にきっと復職してくれることでしょう。(竹重和郎記)

平成30年度帯広・十勝三師会講演会
日時：平成30年11月19日(月)
午後7時より

場所：十勝会館 2F 講堂
毎年この時期に年1回行われる標記講演会が、今年度は十歯会の担当で開催された。今回はメインテーマを「子供の健康について」として、三師会の各先生方がそれぞれの立場からメインテーマに関して講演いただいた。

十歯会からは船津三四郎 先生が「学校保健委員会の活動ならびに最近の子供たちの歯科的諸問題」について提言された。北海道薬剤師会十勝支部の長崎幸幸 先生は学校薬剤師としての活動内容、十勝医師会の清水重男 先生は小児診療の主訴で最も多い発熱について、また、帯広市医師会の住谷 晋 先生には子供のウイルス性発疹症として、最近流行の兆しを見せている風疹を中心に解説いただいた。

質疑応答の後に閉会となり続いて行われた懇親会では、普段は交流の機会が少ない三師会の会員同士で親睦を深めた。(南館直人記)

千歳 CHITOSE

在宅歯科医療連携推進サポート研修会
日時：平成30年11月28日(水)
午後7時より
場所：エニケンビル 3階



標記研修会が開催され、講師に道歯会 沖津理事をお招きして、「実践に向けた在宅医療の基本的考え方」と題して講演いただいた。



講演の内容としては、1. 基本的概念、2. 対象患者、3. 「場」と「環境」、4. 対応の範囲、5. 連携、6. 緊急時対応に分けられ、それぞれ説明していただいた。(詳しくは当日配布資料を参照)

訪問診療をこれから進めていく上で、今までやってこれていない先生にとって、訪問診療のやり方など、

とても役に立つ講演会だったかと思う。(平山 健記)

野球部納会<今年も盛り上がりました!!>
日時：平成30年11月16日(金)
場所：恵庭市「漁川」



野球部納会が開催された。清水(将) マネージャーの司会のもと杉江会長、前島Bチーム監督の挨拶からはじまり、今年はBチームのCゾーン優勝という、うれしい快挙もあり、はじめから大いに盛り上がった。昨年はAチームのBゾーン優勝があり2年続けての祝いムードです。

AチームはAゾーンでの今年の試合、Aゾーン残留は決めたものの、Aゾーンのレベルを実感、個々のレベルアップ、Aゾーンに遠慮することなく思いきったプレーが必要との声も聞かれた。

一方、BチームはCゾーンでは投攻守に安定?したプレーが目立つようになり、時々珍プレーも見られるが大会や試合への意欲はAチームを凌ぐ気迫も感じられる。Bゾーンのレベルに臆することなくプレー

できれば何とかなるしょ。

エース山本は体重を増やして球の威力を増して来年に臨むとのこと。

個々に来年への楽しみと不安を口にしながら納会も後半戦に突入する。

ここで高木先生からサプライズの発表。とその前に今年の部内の表彰選手が水戸Bチームキャプテンから発表された。

新人賞 藤井先生・佐竹(将)先生、優秀賞 清水(将)先生・山本先生
MIP賞(珍プレー賞?) 川端先生・須貝先生、MVP やはり川越先生

そして、とっておきのサプライズが最後に用意されていた。長らくAチーム、Bチームの監督としてチームを支えてきて、ともに還暦を迎えた杉江・前島両先生にやや気恥ずかしい気持ちのこもったサプライズプレゼントがあった。(写真参照)

そして、佐竹(父)先生の閉めの言葉と乾杯にて閉会した。(高津良二記)
北広島市歯科医師会忘年会
日時：平成30年11月22日(木)
午後7時30分より

場所：小料理「なごみ」

北広島市歯科医師会の忘年会が行われた。今回の参加者は14名だったが、大いに盛り上がった。

まず、忘年会に先立ち、第3回例会が行われ、庶務報告として、歯と口の健康週間の優秀作品を掲載したカレンダーが完成したので、会員に院内に掲示して

もらうのと各学校に配布し校内に掲示してもらうこと、また、今回、北広島市功労者表彰に、当会から、横尾先生、藤川先生、河井芳樹先生、横井先生、小屋先生が表彰されたことが報告された。

他に保育園健診の器材については、保育園の方で用意することだった。以上、例会は終了し、いよいよ忘年会の始まりである。

ここ数年、続けて行われている「なごみ」だが、相変わらず美味しく、一品、一品、手の込んだ料理をいただくことができ、いつもながらつつい飲みすぎてしまい、酔いも手伝ってか話はずみ、とても楽しいひと時を過ごすことができた。須貝先生、幹事お疲れさまでした。(平山 健記)

札幌

SAPPORO

平成30年度救急医療講演会

日時：平成30年9月29日(土)
午後3時より

場所：札幌会館大講堂



標記講演会が開催され、会員60名スタッフ21名の合計81名の出席があった。

「歯科診療に関連した緊急事態とその対処法」という演題で、JR札幌病院麻酔科清水 齋 副院長に講演いただいた。

近年、高齢化が進み内科的な合併症を持つ患者の頻度は増え、内科的緊急症に遭遇する機会が増えているなかで緊急症の対応能力が必要であるとお話された。

歯科診療時の急変の対応を、予防、早期認識、可能な治療・処置の実施、早期搬送に分け、迷走神経反射、誤嚥・窒息、局所麻酔薬中毒、アナフィラキシーショックのそれぞれについて緊急時の対応手順を中心に麻酔科専門医の立場で講演された。

今後の日常の歯科診療において、臨床の場でとても役立つ大変有意義な講演であった。

(尾崎純一 記)

平成30年度医療管理講演会

日時：平成30年10月13日(土)
午後4時より

場所：札幌会館大講堂

「診療が楽になる、みんなが笑顔になる医療コミュニケーション」という演題で、みらいクリニック 今井一彰 院長に講演いただいた。



当日は会員70名、スタッフ33名の合計103名の出席があった。

短時間で患者に満足してもらうことができるようになるのは技術であり、習得が可能であること、また発病の原因や病態についての患者側の考え、いわゆる『解釈モデル』を把握することで、様々な来院のニーズに対応することが可能となり、医師患者関係の改善、クレームの防止にも繋がるといったお話を中心に講演された。マインドカルテの作成や臍を向けて患者さんと向き合うことなど、ちょっとした医療面接のコツも教えていただいた。

今後の日常の歯科診療において、臨床の場でとても役立つ大変有意義な講演であった。

(天野大助 記)

平成30年度歯科助手教育講習会並びに社保事務担当者講習会

日時：平成30年9月3日(月)から
10月19日(金)

場所：札幌会館

本年度も乙種第1 歯科助手(主として診療室内の仕事に従事するもの)および乙種第2 歯科助手(主として事務的な仕事に従事するもの)の資格を同時認定する標記講習会が、25名の受講者のもと開催された。

地震の影響で計18回の講義と実習が17回に変更になったが、計画していた内容は全て実施され、最終日には山田会長より23名の受講者に修了証が交付された。認定された受講者には後日、日本歯科医師会より歯科助手資格認定規程の規定による資格認定証が交付される。

受講後のアンケート結果によると、「どの科目に興味がありましたか?」という質問に多かった回答は「レセプト・社保関係」「消毒・滅菌法」「器具、材料の取り扱いの実習」でした。「実習の講師の先生が丁寧に教えてくれて、とてもわかりやすかった」「実習を増やしてほしい」「レセプトに関してもっと教えてほしい」という感想・希望が多く見られた。また、歯科診療概要、保存、補綴、外科、救急処置、レントゲン、患者対応などの講義に関しても、「今まで学ぶ機会がなかったのでもっと良かった。仕事に臨むモチベーションがあがった」という受講生も多く見受けられた。

今回の受講の理由として「自分が勉強したい」から申し込んだ受講者が57%、また、「今後も機会が

あれば受講したい」と答えた受講生は61%とそれぞれ最も多く、学習意欲の高い歯科助手が毎年多いと感じた。

(鈴木敏人 記)

平成30年度フッ化物洗口講習会

日時：平成30年10月16日(火)
午後7時より

場所：札幌会館 大講堂

標記講習会が開催され、札幌市、江別市の保育園と幼稚園5施設の園長、副園長、看護師、嘱託歯科医師16名が受講された。

はじめに、フッ化物洗口の基本知識と実施方法について、北海道保健福祉部健康安全局地域保健課の高橋 取 主任技師が講演された。北海道は全国平均と比べるとむし歯有病者が多いこと、フッ素がむし歯を予防する仕組み、フッ化物洗口法の具体的な方法、安全性についてわかりやすく解説された。

次に、フッ化物洗口の具体的な実施手順について、本会学校歯科担当の高橋修史 理事が講演した。厚別さくら木保育園で実際行われているフッ化物洗口の方法について詳しくお話しした。

最後にフッ化物洗口体験として、殻の半分にフッ化物入り歯磨剤を塗り込んだ卵をお酢に1日入れたものを実際見てもらい、その差を実感してもらった。

講演後、参加者からフッ化物洗口導入についての多くの質問があった。

(堀井 豪 記)

函館

HAKODATE

「第4回函館市医療・介護連携多職種研修会」に参加して

日時：平成30年10月20日(土)
午後2時から午後5時

場所：函館国際ホテル

標記研修会「地域での看取りを知る～その現状とこれから」がシンポジウム形式と参加者によるグループワーク形式にて開催された。医療系・介護系の多職種約350人の出席であった。函館医師会会長 本間

哲 先生の開会挨拶に続き、函館後北病院副院長の川口篤也 先生がシンポジウムの座長を務め、函館厚生院介護老人保健施設「ケンゆのかわ」の施設長 老松寛 先生、北美原クリニック 岡田晋吾 先生、函館おしま病院 福徳雅章 先生がシンポジストとして発表した。

川口先生からは「国、市の看取りについて」全国の死亡場所についての年次推移の統計が発表され、病院で亡くなるのがピークだった2005年から徐々に減っていき、自宅や老人ホームで亡くなる方が増加してきているとの報告があった。また、函館市の人口の推移についても65歳以下人口は減少傾向にあるが、それ以上の老年人口は減らずキープされ、今後25年以上この傾向が続くという総務省の資料の説明があった。

岡田先生からは、最期を迎えたい場所の市民アンケート結果から「自宅」が54.6%で最も高いが、在宅看取り率は全国平均が13%に対し函館は8%と低いということで、地域住民の望んでいることとギャップがあるとのことだった。住民の希望どおり在宅看取り率をアップさせるためには、在宅医療を行う人材を増やし、在宅医療の提供のため多職種間の情報連携を築いていくシステムの構築が重要であると説明された。



福徳先生からは、患者さんの死が近づいた時のケアの方法や家族への配慮等が説明された。

その後、グループワークではシンポジストへの質問や意見が活発に出され、この地域の医療・介護に

携わる多職種の方々の支えがなくてはならないと感じた研修会であった。函館ではこれ以外にもさまざまな業種が主催する多職種の研修会等が頻繁に行われ、同じようなメンバーがいつも参加しているためか「顔の見える関係」は形作られてきていると感じている反面「在宅で通院困難な人がいるが、歯科は往診無理なんじゃないか?」や「この程度のことで頼みづらい」と遠慮されるなど、まだまだ歯科医師は多職種からは垣根が存在すると感じる時がある(垣根というよりは堀があって遠い存在)。

今後は、サービス担当者会議や地域ケア会議等にも積極的に参加して訪問歯科診療でできることをアピールしていく必要があると感じた研修会であった。

(川村曜輝 記)

後志

SHIRIBESHI

道央西地区役員連絡協議会

日時：平成30年10月27日(土)
午後4時30分から午後8時

場所：おたる政寿司



加藤副会長の挨拶により協議会は開始された。市村会長、練合会長から各地域の活動について報告があった。

協議会終了後は懇親会が開催され、樽歯会が用意してくれた豪華景品をかけたビンゴゲームは盛り上がった。

(五十嵐 豊 記)

平成30年度 後志歯科医師会主催 社会保険講習会

日時：平成30年11月1日(木)
午後7時30分から午後9時

場 所：余市町「ホテル水明閣」

出席者：会員27名

講 師：道歯会 井谷秀朗 社会保険担当 常務理事



あれだけ居てんとう虫が消え、雪虫の舞う晩秋の候、リヒテンシュタイン公国の25倍ある各地から余市町のホテル水明閣へ、診療後の午後7時30分、30名弱の後歯会会員が集い、道歯会の井谷常務理事を講師にお迎えし、標記講習会が開催された。

今回の講習会では診療報酬改定以降の疑義解釈を踏まえ、具体的な注意点の指摘や解説が行われた。

また、経過措置中の施設基準に関しても改めて説明があり、たいへん有意義な講習会となった。

(星 政和 記)

平成30年度 ボウリング部 11月月例会

日時：平成30年11月20日(火)
午後8時から午後9時30分

場所：ファミリーボウル岩内

今大会は年に一度の本大会。仙台の三角揚げ、宝永餃子、長万部ホルモン、馬刺しストライク賞には1ストライクに500gのななつぼしのお米という賞品が用意された。



優勝はこの頃めきめきと上達してきた土方家の妻、奈々子様。食べ盛りの子どものためにガッツリ賞品をゲットした。

久しぶりに参加できた先生方も本大会だけでなく

月例会にも参加していただきたいと思う次第である。次回は12月平常月例会となる。(伊藤 純 記)

	①	②	③	HDCP	
優勝	土方(妻)	197	242	202	82→58
準優勝	青山	203	203	207	36→30
1位	中村	191	188	227	41→36
2位	黒田	193	169	229	40→37
3位	長澤	216	173	193	28→27
4位	島田	158	209	205	80→75
5位	五十嵐	202	194	174	47→46
6位	山田	187	203	174	47→47
7位	中川	154	178	222	41→42
8位	柏谷	163	207	182	75→76
9位	伊藤	158	179	170	22→32
BB賞	井筒	194	145	136	46→58
BM賞	土方	155	126	135	29→50

第1回後志歯科医師会

学術・障がい者歯科研修会

日時：平成30年11月22日(木)
午後7時30分より

場所：余市町「ホテル水明閣」

北海道医療大学歯学部 口腔機能修復・再建学系 咬合再建補綴学 越野 寿 教授をお招きして、「超高齢社会の歯科医療」



と題して、標記講演会が執り行われた。患者の高齢化が進行するなか、義歯補綴治療を中心に解説いただき、会員も喫緊の課題に熱心に耳を傾けていた。

(高野秀喜 記)

平成30年度 ボウリング部

全道歯科医師地区対抗戦

日時：平成30年11月25日(日)
午前11時から午後1時

場所：総合レジャー サンコーボウル

さる11月25日(日)札幌はサンコーボウルにて全道歯科医師地区対抗ボウリング大会が行われた。後歯会からは上記5名が参加した。3名1チームで構成されたため、後志は土方、土方(妻)、長澤のAチームと黒田、伊藤、永澤(旭川)のメイクBチームでの参加となった。

結果はなんとBチームが優勝した。しばらくぶりのチーム参加で初優勝であるこれを機に全道、東日本、全国大会へもこの調子で参加できるようになってもらいたいものである。

(伊藤 純 記)

	1G	2G	3G	4G	合計	HDCP	ave	
8位	伊藤	204	183	196	184	755	4	192.750
13位	黒田	150	173	185	181	689	60	187.250
14位	土方	242	173	157	171	743	0	185.750
16位	長澤	180	171	170	180	701	0	175.250
19位	土方妻	115	138	142	149	544	60	151.000

苫小牧

TOMAKOMAI

むし歯予防事業「歯っぴい白老」

日時：平成30年11月11日(日)
午前9時より

場所：白老町総合保健福祉センター
(いきいき4・6)

3歳半から小学校入学前の小児を対象として昨年度から始まった、白老町と共催で行われる標記事業



が今年も開催された。当会会員の5名の歯科医師による歯科健診、歯科相談、歯科衛生士3名によるフッ化物塗布が実施された。受診するためには事前の申し込みが必要で、受診者は30分ごとに区切られて実施されているため、今年も大きな混乱もなく実施できた。

今年度は46名の受診があり、来年度以降も継続して実施する予定である。

(関 俊也 記)

社会保険講習会

日時：平成30年11月16日(金)
午後7時より

場所：苫小牧市医師会館 3階講堂

道歯会 社会保険(社保)担当の井谷常務理事をお迎えして、郡市区主催の標記講習会が開催された。講習会に先立ち、北海道社会保険支払基金の審査企画課の方から審査上間違いが多い事例、注意点などを説明していただいた。そのため、井谷常務理事には1時間半というかなり短

い時間の中で、多岐にわたる内容を説明していただくこととなった。

10月からは届出の有無によって初診料が異なることになり、各自届出が行なわれているか再度確認するよう説明があった。例年同様、点数の改定、施設基準、名称変更などがあり、配布された資料の量も膨大となっていた。

日々の診療のなかで避けて通ることのできない保険診療であり、保険制度上のルールを知ること、守ることが保険医の責務である。今回の講習ではそれらを再確認する機会になったものと思われる。

(関 俊也 記)

室蘭

MURORAN

社会福祉法人 北海道社会福祉事業団
太陽の園 創立50周年記念式典
日時：平成30年10月28日(日)
場所：ホテルロイヤル



伊達市にある「社会福祉法人北海道社会福祉事業団 太陽の園」の創立50周年記念式典が行われた。この太陽の園は、知的障がい者総合支援施設のモデル施設として昭和43年に全国に先駆けて設立され、知的障がいのある成人や児童を対象として、日常生活全般を支援する入所施設と、生産活動



等の日中活動支援を提供する通所施設を併せ持つ総合施設である。創立50周年にあたり、太陽の園の運営・活動に貢献してきた個人・団体が功労者表彰を受けた。

室歯会も「歯と口の健康週間事業」において、伊達の先生方が入所者の方たちの歯科健診を長年にわたって行なっており、入所者の口腔の健康維持、増進に寄与したことが評価された。室歯会を代表して仲川会長が出席し賞状、記念品を贈呈された。

室歯会としてこれからも入所者の口腔の健康に貢献していければと考えている。(畠山雄一 記)

日本歯科医師会認定歯科助手資格認定講習会
日時：平成30年10月20日(土)21日(日)
27日(土)28日(日)

場所：室歯会館 小会議室
受講者：10名

室歯管内の歯科助手育成に重要な講習会として位置づけられている標記講習会が上記日程で行われた。



開校式では、飯淵副会長よりこの講習会の意義や重要性が説明され、しっかり学んでほしいとの挨拶があった。事務局の森 事務局長より各手続の説明があり、書類の記入等が行われた。



その後早速、口腔衛生講義が行われ歯科衛生士会から講師をお招きしブラッシング等の話や実習が行われた。歯科助手が患者さんに直接衛生指導はできないものの、知識としては必要であり、初日の講義ということもあり参加者は緊張の面持ちで受講していた。



二日目は医療管理部の先生方が講師となり講義が行われ、各先生はいろいろ工夫をし、パワーポイン

トなどを駆使し、歯科助手としての知識と心構えを一人ひとりに確実に伝えるよう講義をされていた。また、救命救急講習も行われ、患者の急変やその対応と題して講義と実習が行われた。AEDの実習は本番さながらの緊張感で、受講生たちも真剣な表情で取り組んでいた。この日は実習として器具の洗浄や即重レジンの取り扱いの実習も行われた。

三日目は接遇マナーセミナーが行われ、学校法人帯広アオ学園の林 佳奈子氏より講義があった。

四日目は最終日であり社会保険部より歯科用語の説明や保険に関する話、カルテからのレセプト作成など保険事務に関する講義が行われた。さらに模型上でのTEKの作成や希望者には個人トレーの作成の実習などが行われた。

最後にこれまでの講義を受けての感想文を書き、仲川会長より修了書が一人ひとりに授与され、欠席者もなく閉講式後に記念写真を撮影し終了した。(畠山雄一 記)

小樽

OTARU

野球部納会
日時：平成30年11月9日(金)
午後7時30分より

場所：たじべい

部長の加藤先生から来年は札幌大会、そしてその翌年は小樽大会が開催される旨の報告があった。その小樽大会開催のあたりには、人員不足が予想され、後志チームの協力が不可欠とのことだった。たしかに小樽チームの現在の人員だけでは大会を運営するのがかなり難しく、他チームに協力を請わなければ、かなり難しいことが予想される。



乾杯のご発声は、例年通り宿老である千葉先生によって執り行われ、小樽大会開催に向けて部員一一致団結して、これを成功させることを願った。

業務連絡は、平井先生より来年の開会式が札幌円山球場で開催されること、また小樽チームは札幌宿泊が難しいとの内容だった。

最後に、高村先生から締めくくられ、来年もまた元気で怪我もなく試合できることを祈って乾杯となった。(伊藤勝敏 記)

いい歯の日

日時：平成30年11月11日(日)
午前9時から午後12時

場所：小樽市歯科衛生士専門学校

11月11日にいい歯の日のイベントが行われた。当日は朝のうち小雨が降ったが、次第に晴れ間が見え、やや肌寒いもののまずまずの天候であった。午前9

時の開始と共に数人が来場し、早速フッ化物塗布を受けていた。その後出足が緩やかになり、午後12時の終了時には、来場者数は212人と、例年よりやや少なかった。イベントでは、健診、フッ化物塗布、口臭測定、お口の健康度チェックを行った。

参加者は、幼児や小学生を連れた家族が最も多く、ほとんどがフッ化物塗布を希望していた。何度もイベントに参加しているうちに、今では泣かずにフッ化物塗布を受けることができるようになったという子どももいて、市民に定着したイベントとなっていることを実感した。ここ数年は、高齢者の参加も増えており、口腔の大切さが市民に認識されてきているようである。参加者はお口の健康度チェックなどを受け歯科衛生士の説明に熱心に耳を傾けていた。



イベントを共催している保健所は、パネル展示とフッ化物洗口体験を行い、情報提供に努めた。(中村悦子 記)

歯科衛生士専門学校研修旅行

日時：平成30年11月14日(水)から16日(金)

場所：東京方面

小樽歯科衛生士専門学校2年生が2泊3日の旅程で東京方面に研修旅行に出発した。

研修のメインは3日目の株式会社ジーシーでの研修である。前年まではデジタルX線画像や手洗い方法などの研修であったが、本年は舌圧測定器やグルコセンサーを用いた咀嚼能力検査などの研修であった。保険導入された最新機器のデモは筆者が代わりに受けてみたいと思う内容であったが、彼女たちの印象に残ったのは初日と2日目の東京ディズニーリゾートでのフリー行動だったの言うまでもないだろう。天候にも恵まれ、ディズニーマスコットたち

と夢のような楽しい時間を満喫したようである。先進医療の知識を得た彼女たちが勉強や実習にますます励んでくれることを期待してやまない。(山本栄治 記)

第23回臨時総会

日時：平成30年11月16日(金)
午後7時30分より

場所：小樽経済センター 7F

氏名点呼が行われ会員数97名のところ出席34名、委任状出席26名、合計60名の出席を確認し、定款第19条により総会の成立が確認された。

修礼後、平成30年7月1日にご逝去された、故唐橋 有 会員への黙祷が行われた。加藤副会長による開会の辞に続き、市村会長の挨拶の後、議長に本間 豊 会員、副議長に角谷 淳 会員が選出された。

報告事項として(1)会務報告(2)会計現況報告(3)郡市区歯会会長会議報告(4)道歯代議員会報告(5)小樽歯科衛生士専門学校現況報告(6)小樽歯科衛生士専門学校運営委員会報告(7)北海道歯科医師会報告(8)その他で事前質問に対し、市村会長・高村専務・上浦理事・加藤学校長・平井専事より、それぞれ回答がなされた。

議事では議案第1号 平成31年度の小樽歯科衛生士専門学校運営について会員に承諾を求むる件 平成32年度入学生の募集をする。平成31年度の小樽歯科衛生士専門学校運営について、正会員の学校運営負担金額を年額60,000円(月5,000円)とし、徴収方法は別に定める。なお、不足分は本会から補填するものとする。再度点呼ののち、記名投票により議決がなされ、賛成43票・反対21票にて可決された。事業の報酬に関する件が原案どおり可決された。

その他では佐藤学術担当理事より北海道警察歯科協力医会入会へのお願いがなされた。

高村国保組合小樽支部長より、来年行われる組合員の資格調査および所得調査への協力依頼がなされた。その後、加藤副会長より閉会の辞があり、すべての日程が終了した。(山口大樹 記)

三師会総会

日時：平成30年11月24日(土)

午後6時より

場所：オーセントホテル小樽

今年の総会担当は医師会。鈴木敏夫 小樽市医師会副会長の開会の辞で、総会が始まった。来賓紹介の後、三師会会長でもある阿久津光之 小樽市医師会会長より、「小樽市三師会はとてもフラットな関係が継続している。今後もこの関係を継続させ、より質の高い医療・介護の提供をしていきましょう」との旨の挨拶をいただいた。続いて、来賓である中村裕之 代議士、八田盛茂 道義、迫 俊哉 小樽市長より祝辞をいただき、その後講演がなされた。講師は小樽薬剤師会 地域保健委員会 高橋正典 委員長、演題は「薬局における居宅療養管理指導の実態」であった。

講演終了後、懇親会が行われた。市村昌久 小樽市歯科医師会会長の挨拶で開宴。高橋克幸 小樽市議会副議長による祝杯の後、祝宴に入った。宴が佳境に入ったところで、総会前に行われた麻雀大会・ボウリング大会の結果発表が行われた。当会から海老沼 稔 先生がボウリングで準優勝を果たし、昨年の最下位から脱した。

宴は益々盛り上がりを見せつつあったが、時間が迫ってきたため桂 正俊 小樽薬剤師会会長の万歳三唱で、中締めとなった。(野 隆広 記)



日高

HIDAKA

歯科偶発症対応力向上研修会

日時：平成30年11月17日(土)
午後2時から午後4時

場所：静内ホテルロイヤル

講師：北海道医療大学 生体機能・病態学

系 顎顔面口腔外科学分野
教授 永易裕樹 先生
演 題：「日常臨床における遭遇しやすい偶発症の対応」

出席者：16名

内 容：偶発症全般に共通の一次対処として
1. 治療を中止し口腔内の治療器具(ロール綿など)を除去
2. 声かけで意識状態を確認、意識レベルの維持に努め全身所見を観察

3. 血圧、脈拍数、SpO₂ 確認あれば酸素投与(3l/min)で開始等が重要であることを述べられた。

各論では
○血管迷走神経反射
○過換気症候群
○重症アレルギー(アナフィラキシーショック)等の症状、予防、処置について説明があった。講演の後、以下の実習を行なった。



1. 静脈確保
点滴セットの組み立て方
静脈路確保部位の確認
腕の模型を使って針の刺入の仕方

2. 縫合法
模型を使っての水平・垂直マットレス縫合の練習
(舟木理一郎 記)



稚内

WAKKANAI

学術講習会

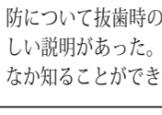
日時：平成30年11月17日(土)

午後3時より
場所：稚内総合文化センター

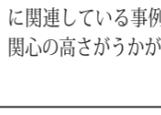
「知っておきたい高齢者の抜歯」という演題で今年1月に北海道医療大学 歯学部 組織再建口腔外科分野教授に就任された志茂 剛 先生に講演いただいた。

内容は骨粗鬆症患者の抜歯が中心であった。最初に骨粗鬆症の原因や病態について、骨構造をわかり

やすい例えで説明があり、治療とそれによる病態について解説があった。私たちがもっとも気になるARONJの発症予防について抜歯時のポイントを踏まえて、さらに詳しい説明があった。さらに私たち一般開業医がなかなか知ることができないARONJ発症患者の治療につ



いて症例をもとに説明があった。日々の診療で骨粗鬆症治療薬を服用している患者を見ない日はないほど、日常の臨床で密接に関連している事例のため、会員から質疑は活発で関心の高さがうかがえた。(三浦佐和子 記)



釧路

KUSHIRO

ゴルフ部納会

日時：平成30年11月4日(日)
場所：釧路カントリークラブ

鶴居東コース、居酒屋こじゃれ
去る11月4日(日)ゴルフ同好会ラストホール杯が、釧路カントリークラブ 鶴居東コースで行われた。

例年より多い19名の参加者を得、小春日和の絶好のコンディションの中、今年最後のゴルフコンペを楽しんだ。

プレイ終了後に釧路市内の居酒屋「こじゃれ」にて納会が催され、コンペの成績発表および表彰式が行われた。今年最後の優勝は、実力に勝る伊藤暢康 先生がベスダグで初優勝し、来シーズンの活躍を予感させた。鍋を囲みながら今年の反省と、来シーズンの抱負を語り合いながら、盛会裏のうちに納会を終了した。(榊田健詩 記)

第10回 歯科臨床を語る会

日時：平成30年11月17日(土)
午後3時より

場所：釧路歯科医師会館 2階 大講堂
歯科臨床を会員みんなで大いに語り合おうという「語る会」。

今回は「こだわりの」パート2と題して、日ごろの臨床で各自こだわっていることを、6人の演者の発表していただいた。

1、吉井 透 先生 「歯肉レベルにこだわる」
2、伊藤暢康 先生 「乳歯列に対し行った矯正治療早期治療にメリットはあるか？」

3、山本 誠 先生 「Er: YAGレーザー再考」
4、大久保恒康 先生 「訪問診療における3つの課題」
5、富本幹弘 先生 「難駁なる我歯科診療のこだわり」
6、鹿野洋一 先生 「語る会に参画して」

それぞれの熱い思いを語っていただき、当初の予定時間を大幅に超える盛り上がり、明日への診療に臨む心構えを新たにしたい有意義な語る会になった。(山須田貴久 記)



岩見沢

IWAMIZAWA

夕張市市政功勞・善行表彰

日時：平成30年11月8日(木)
午前11時より

場所：夕張市役所 4階会議室

30年・夕張市功勞・善行



歯科衛生士の伊藤磨理子氏(由仁町在住)が、多年にわたり児童の歯科保健の維持・改善に尽力されたとして「保健衛生功勞」を受賞された。

伊藤さんは平成9年から、年に4回実施される乳幼児健診に参加され、夕張の子ども達の口の健康を守ってきてくれた。また、この他にも平成9年から

12年まで実施された保健師・歯科衛生士・歯科医師がチームを組み、お年寄り宅を戸別訪問する「夕張市在宅寝たきり者等歯科保健推進事業」にも参加していただき、お年寄りの健康の維持増進に寄与してくれた。

聞くところによると冬の帰りの夕張峠は難儀したとか、また、チーム医療の大事さを学んだとのことだった。同じ歯科医療に従事する者として、今回の表彰は光栄なことでありご報告申し上げます。

(木村 悟記)

道央圏域在宅歯科医療連携室研修会

日時：平成30年11月18日(日)
午前9時30分より

場所：岩見沢市民会館・文化センター
まなみーる 2F音楽室

演題：みんなで「食べる」を守りたい
講師：広島大学歯学部 吉田光由 准教授

本会では「すべての人に適切な歯科医療を」をモットーに歯科と介護の連携に取り組んでいる。今回、南空知医療介護福祉の多職種連絡会と共催で標記研修会を基調講演とケアカフェの二部構成で開催した。



基調講演では吉田先生から、要介護者や終末期の方の食支援について、また、義歯装着の可否、認知症、嚥下の状態や舌圧などを絡め豊富な症例や研究・論文に基づいて講演いただいた。

ケアカフェでは「楽しく食べる」をテーマに対話が持たれた。単に食材や調理方法だけではなく、楽しく・美味しく食べるためには、環境も大切であるということが改めて認識された。

(木村 悟記)

保険勉強会

日時：平成30年11月29日(木)
午後7時30分より

場所：岩見沢市生涯学習センター いわなび
保険担当 清水 学・山口友隆 理事が各地に赴き開催する「保険勉強会」が今年も9月から11月に行われた。



会員はどの会場に出席するのも自由、数名から10名程度で気楽に質問しやすいということもあり、毎年好評である。今年

は「保険診療を十分に理解する・歯科医療における自費診療のあり方を検証する」と題し、保険診療・自費診療・混合診療に関するルール、正しいカルテ記載と訂正方法、請求誤りの多い例、30年度改定の特徴、などを各地で解説した。

日程の最終日となる岩見沢会場には22名の会員が集まり、質疑応答では予想どおり、多くの質問が寄せられた。

(久恒泰宏記)

旭川

ASAHIKAWA

空知

SORACHI